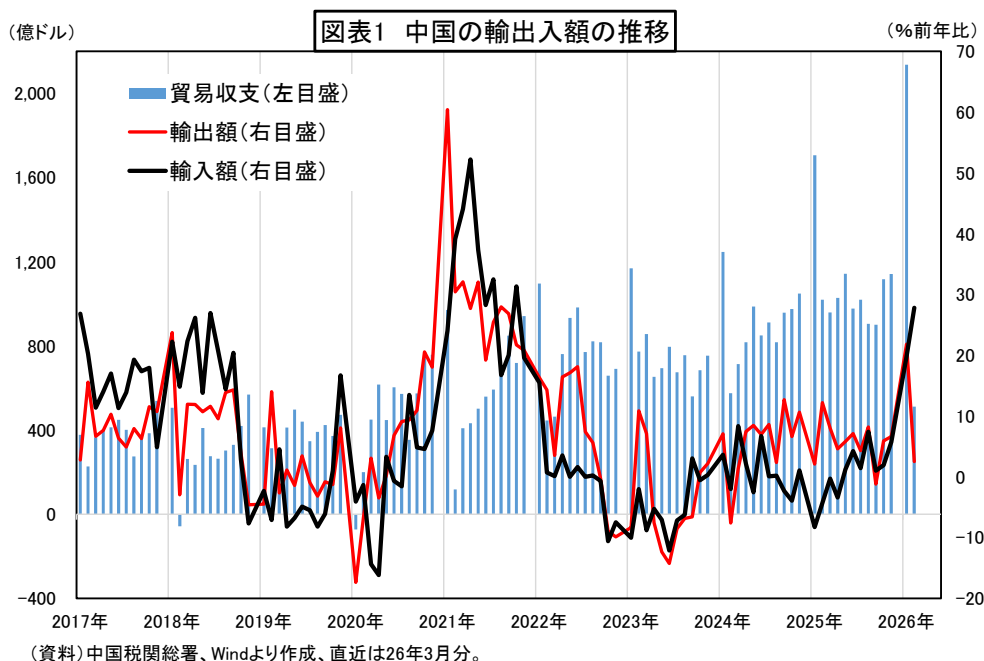


(中国)3月の輸出入はともに底堅く推移

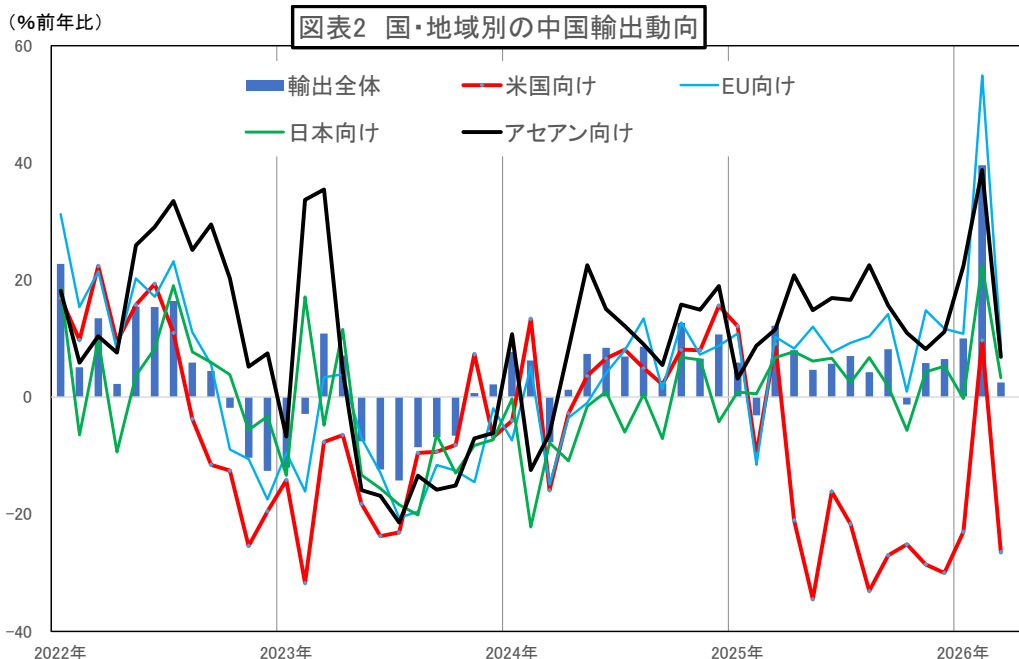
2026年4月14日に中国税関総署が発表した貿易統計によると、3月の輸出額(ドル建て)は前年比2.5%と、1~2月期から19.3ポイント減速した(図表1)。この減速は春節(旧正月)後の反動減による一時的な要因が主因である。春節が遅い年には、企業が2月中に前倒しで出荷を行い、その反動として3月の輸出が弱含む傾向がみられる。実際、2015年や2018年には2月に前年比40%を超える高い伸びを記録した後、3月にはマイナスに転じた事例が確認されている。

そうしたなかで、今年は前年比2.5%とプラスを維持しており、輸出の底堅さが示されたと評価できる。中東情勢の緊迫化を背景にエネルギー価格の上昇の影響は一部の新興国に及んでいるものの、海外需要全体が急減している兆候は現時点では確認されていない。その結果、累計でみると1~3月期の輸出額は前年比22.7%と、2025年12月(同6.6%)から大きく加速しており、中国の輸出は依然として強靱性を維持しているとみられる。



3月の輸出を国・地域別に見ると、米国向けは前年比▲26.5%と大幅に落ち込み、高関税の影響などから低迷した状態が続いている(図表2)。一方、EU、ASEAN、日本、アフリカ向けはそれぞれ同8.6%、同6.9%、同3.3%、同3.1%と比較的底堅く推移した。なかでも、ベトナム向けは同20.6%、韓国向けは同48.3%と大きく伸びた。

品目別では、高付加価値商品が輸出全体をけん引した。とくに自動データ処理装置および部品は同37.1%、集積回路は同84.9%と、AI関連需要の拡大を背景に高い伸びが続いている。また、交通輸送設備も堅調で、船舶は同35.8%、新エネルギー自動車(EV)は同139.9%と大幅な増加を記録した。一方、玩具、衣類、カバンなどの労働集約型製品は総じて減少した。



3月の輸入額は、国内需要の持ち直しと輸入価格の上昇を背景に、前年比27.8%と25年12月から大きく加速した。集積回路の輸入は同45.0%、自動データ処理装置は同49.5%と、AI・デジタル関連分野を中心とする国内投資需要の拡大を反映している。また、鉄鉱石などの資源関連の輸入増加も続き、生産拡大に向けた原材料確保が進んでいるとみられる。

加えて、一部原材料や化学品の輸入価格の大幅な上昇が輸入額を押し上げた。例えば、鉄鉱石の輸入価格は前年比39%、肥料は同29.1%と上昇しており、これらには、中東情勢の緊迫化を背景とした国際的な供給リスクが影響している可能性が高い。原材料価格の急上昇は国内製造業のコスト増の要因になる一方、輸入金額の増加にも寄与している。

輸出額(3,210億ドル)から輸入額(2,699億ドル)を差し引いた貿易黒字は511億ドルとなった。こうした貿易動向やAI・デジタル関連分野を中心とした投資の持ち直しを踏まえると、4月16日に発表予定の1~3月期の実質GDP成長率は前年比4.5%を上回る公算が大きい。

今後については、輸出の底堅さは続くと思われる一方で、中東情勢を背景としたエネルギー供給や原材料価格の動向には引き続き注視が必要であろう。